

# ふるさと岩沼の復興に向けて 新たなまちづくりに着手

3月11日の東日本大震災以来、市では多くの皆さまのご協力をいただきながら復旧活動や被災者の生活支援に全力で取り組んできました。

復興に関する方針や総合的な施策を迅速に行うため、4月25日、庁内に「岩沼市震災復興本部」を設置し、計画期間を7年間と定めた“岩沼市震災復興基本方針”を決定しました。また、岩沼市としての震災復興計画を早急に策定するため、有識者や被災者代表などによる「震災復興会議」を設置し、5月7日に第1回目の会議を開催しました。今後、さまざまな意見や提言などを取り入れながら、復興計画を策定し、一日も早い復興を目指していきます。

## 岩沼市震災復興基本方針

～ふるさと岩沼の復興に向けて～

### 【基本理念】

#### (1) チーム岩沼、オール岩沼、オールジャパン

- ・全ての市民の力を結集した主体的な復興
- ・国・県・関係諸団体等からの積極的な支援によるオールジャパンでの復興

#### (2) 歴史を大切に安全・安心な市域づくり

- ・地域コミュニティの再生を尊重したコンパクトシティ化
- ・歴史を生かしたコミュニティ居久根（いぐね）の活用
- ・海岸防潮堤、貞山堀護岸、市道および県道による防災機能の強化
- ・避難を円滑に行うための県道拡幅 ・排水対策の強化

#### (3) 岩沼の個性、特性を活かした産業の再構築

- ・新しい分野の企業誘致を含めた産業の復興
- ・災害のない安全な操業環境の確立
- ・農地の再生および農業の復興 ・地盤沈下対策

#### (4) 時代を先取りした先進的な復興モデル

- ・福祉・教育・医療を中心とした先進的な地域づくり
- ・「千年希望の丘」、メモリアルパークなど、国内外の企業やNPOなどのペアリング支援による実現
- ・環境への配慮 ・新エネルギーの活用

### 【計画期間】(H23～29の7年間)

長期的な視点に立った基本理念を実現するため、復旧期(H23～25)・復興期(H24～27)・発展期(H25～29)を設定し、スピード感を持って各種事務事業に取り組むものとする。

5月1日、復興計画や復興に係る総合調整などを行うため、震災復興推進室を設置しました。

## 岩沼市震災復興会議

協議事項：①東日本大震災の復興に関すること  
②岩沼市震災復興基本方針に関すること  
③岩沼市震災復興計画に関すること

委員：学識経験者、産業関係者、被災者代表 など

【委員】 (区分ごと50音順、敬称略)

区分	氏名	役職等
学識経験者	◎石川 幹子	東京大学大学院教授
	今村 文彦	東北大学大学院教授
	大澤 啓志	日本大学准教授
	駒村 正治	東京農業大学教授
	杉本 隆成	東京大学名誉教授
産業関係者	○小野 宏明	市商工会長
	高橋 弘次	名取岩沼農業協同組合長
被災者代表	沼田 健一	相野釜地区
	渡邊 美恵子	矢野目地区
市民代表	佐藤 幸男	

◎は議長、○は副議長

### 【オブザーバー】

国土交通省 東北地方整備局	本多 吉美	仙台河川国道事務所 副所長
宮城県	遠藤 信哉	宮城県土木部次長
	斉藤 敬一	宮城県震災復興・企画部 地域復興支援課長

## 専門的視点で議論 第1回震災復興会議開催

5月7日、有識者や被災者代表などの皆さまから、復興の在り方について意見を伺うため、第1回岩沼市震災復興会議を開催しました。

井口市長から今回の震災による被害状況や復旧作業の内容、今後の復興に向けた考え方などの報告後、議長と副議長を互選。議長には岩沼出身で東京大学大学院教授の石川幹子さん、副議長には市商工会長の小野宏明さんが選任されました。

今後、さまざまな専門的視点から議論を重ねていただき、8月末をめどに震災復興計画の成案策定に向けて取り組んでいく予定としています。



▲会議では、東日本大震災復興グランドデザイン(案)などの協議が行われました

# 生活再建への第一歩

## 仮設住宅の入居が開始

宮城県が3月下旬から市内里の杜地区に建設していた応急仮設住宅の第一次入居分102戸が完成し、4月29日、二野倉地区と相野釜地区、長谷釜地区の一部の方が入居しました。

仮設住宅入居者には、日本赤十字社から炊飯器や冷蔵庫、洗濯機などの家電6点セットが贈られたほか、企業などからも布団などの生活用品が提供され、各戸に配置されました。

5月13日に第二次入居分として60戸、同月20日と21日には第三次入居分として162戸、いずれも里の杜に建設された住宅に順次入居が完了しました。今後、6月2日に60戸の入居が予定され、岩沼市としては合計384戸のプレハブ住宅

の建設と17戸の公営住宅を合わせ、合計401戸の応急仮設住宅となり、被災された市民の方々の入居希望に十分応えられるものとなっています。



▲仮設住宅は1DK、2DK、3Kの3タイプ

### 入居者の声

(4月29日、第一次入居者)

#### ①小林 芳美さん

(70歳 二野倉)

仮設住宅入居は気持ちがあらなく感じがする。これから5人で生活する。今後のことをゆっくり考えたい。二野倉地区が近くに固まって入居できたのは本当によかった。

#### ②菊地 カツ子さん

(64歳 二野倉)

朝から気分が違った。うれしいの一言。3人で生活する。仮設住宅だけど、生活再建に向けての一步が踏み出せて良かった。避難所では共同生活がスムーズに行われ、不便は無かった。仮設住宅に入居できて良かった。

#### ③穴戸 春男さん

(64歳 相野釜)

被災した家は基礎の部分しか残っていなかった。今後新しい家を建てることは難しいと思う。仮設住宅では2人で生活する。何といっても風呂にゆっくり入れるのが一番うれしい。

## 道筋

8

### 復興と創造

震災から2カ月半余り、だいぶ復旧も進みました。全員仮設住宅に入る目途が立ち、難儀をおかけした避難所生活もまもなく終わります。

阪神大震災の例をみるまでもなく、心身の健康を損なわれる方が増え、こうしたケアにも意を用いつつ、「ふるさと岩沼」の復興への道筋をつけ、単に元に戻すのではなく、「新しい岩沼」を創造していきたいと思えます。

岩沼市は阿武隈川最下流に位置し、長い間水を活かしながらも、河川、内水との戦いが続きました。あらためて海水にも目を向け、津波対策を含む治水対策により、安全・安心を高めたいと思えます。現在、市の復興計画を作っていますが、実施には、まさにチーム岩沼、オール岩沼、オールジャパンで取り組む必要があります。また、報道等でも紹介されていますが、津波よけ「千年希望の丘」、メモリアルパーク、「三重の防壁」と避難路の整備などの先進的な構想を検討しています。他に先駆けて全国の復興モデルとなる計画を作り、情報発信をすることで、国や県の復興計画に反映してもらおう考えです。

今回の震災は、単なる災害ではありません。被害は他に比べて少ないと言われますが、150名近くの方が犠牲になるといふ岩沼の歴史をひもといってみても例の無い大災害です。こうした史上空前の大惨事に直面している現実をしっかり受け止め、希望を持って一歩一歩着実に歩みを進めていきたいと思えます。

まだ復旧・復興への道は始まったばかりです。市民の皆様のご理解、ご協力そしてご支援をお願いします。

市長 井口 経明